

平成25年度 農畜産物生産者大会 特集

平成25年度 農畜産物生産者大会

複合経営化を推進し、他産地に勝る農畜産物出荷を旨す



△青果物振興に向け、新規作付・規模拡大を呼び掛ける山谷会長



△生産者や行政、JAや市場関係者など約215名が参加

J A あきた白神（石山金由組合長）と、青果物生産振興連絡協議会（山谷初男会長）による、平成25年度農畜産物生産者大会が2月21日、能代市のプラザ都で開催されました。

大会では、はじめに石山組合長が「昨年12月に政府が発表した『新たな農業・農村政策』では、農地集積・コスト削減による所得倍増を目指し、各交付金の見直しや平成30年での減反廃止など、米生産は厳しい状況を迎えている。そうした中で、特産品の白神ねぎや白神山うど、白神りんどうが販売額

を伸ばしており、平成26年度からはメガ団地育成事業も展開して、J A では一層の複合経営化を推進していきたい。」と話しました。

その後、優良生産者表彰が行われたほか、来賓からの祝辞や、全農あきたと東京荏原青果株式会社 の担当者から情勢報告が説明されました。また、J A から平成25年度の販売実績と平成26年度の計画案が報告され、J A 稲作部会長の大塚公隆さんが、「平成26年度の農畜産物販売高52億8,200万円達成」などを大会宣言し、満場の拍手で採択されました。